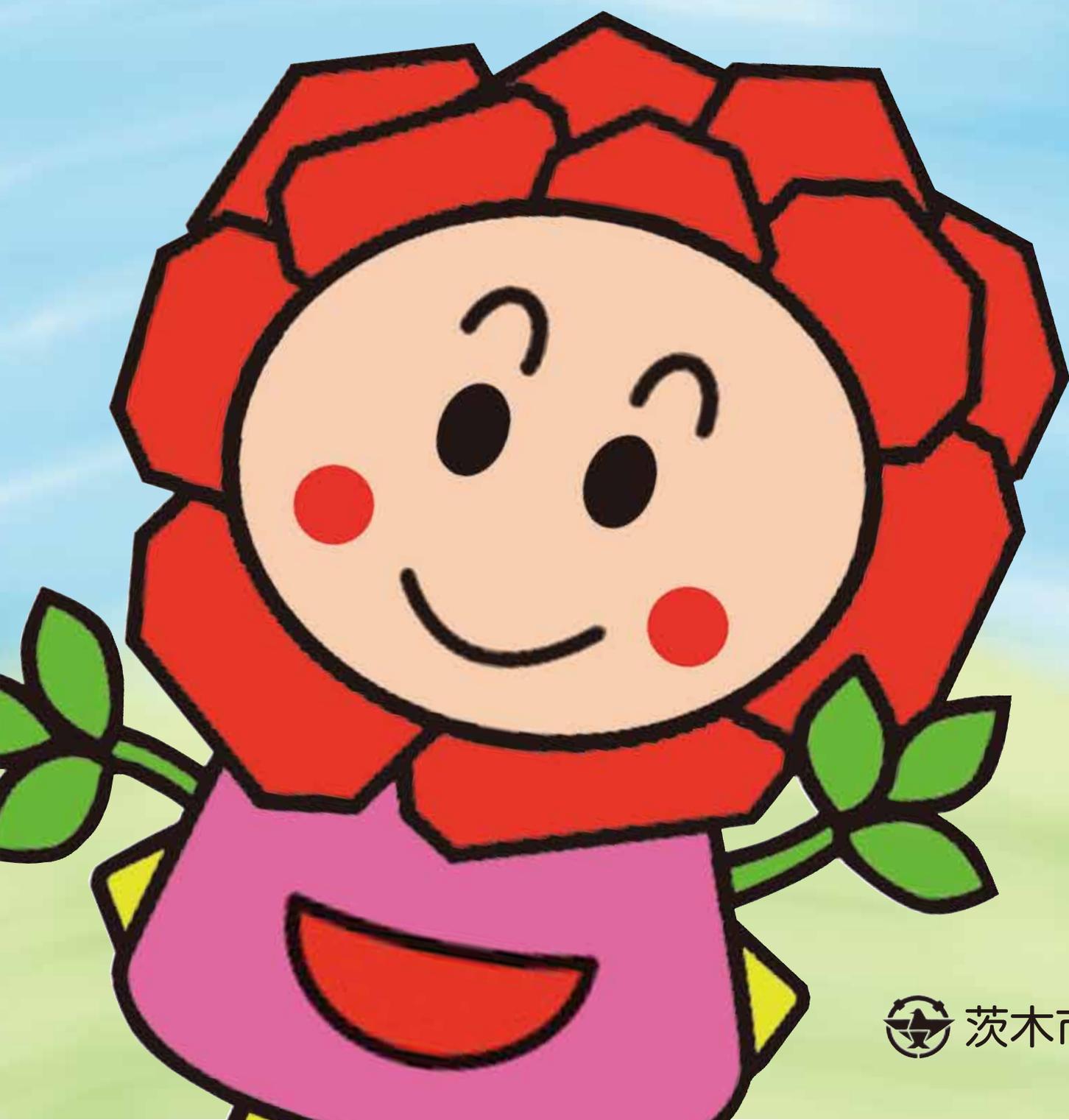


茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)概要版

# 中学生・高校生のあなたに 知ってほしいこと



# 「少子化」って、何かな？

皆さんは、「少子化」という言葉を聞いたことがありますか？

「少子化」は、皆さんの将来や茨木市を含む社会全体にどのような影響を与えるのでしょうか？

茨木市の次代を担う皆さんにとって、「少子化」がどういう意味を持つのか考えてみましょう。

## Q 「少子化」の意味は何ですか？

**A** 生まれてくる子どもの数（出生数）が大幅に減っていくことを「少子化」と言っています。

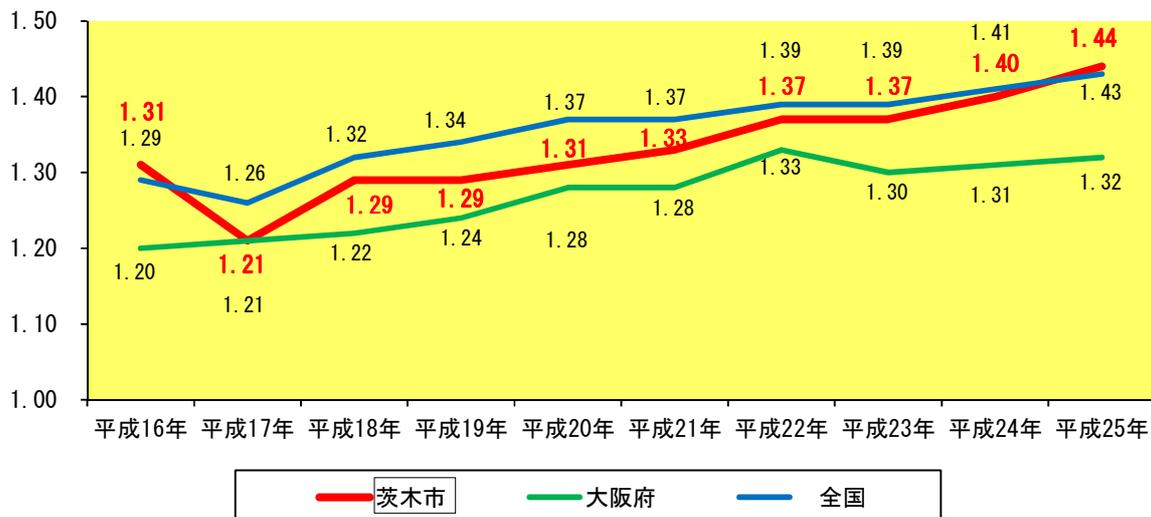
茨木市の出生率（合計特殊出生率）をみると、平成17年の1.21と大きく落ち込みましたが、その後、持ち直し、平成25年は1.44までに上昇しています。

この10年間は、茨木市を含め日本全体の出生率は一見上昇しているように見えますが、今から約40年前の昭和47年のわが国の出生率は2.14でした。これに比べると下のグラフの数値は依然低く、また、長期的に人口を維持できる水準（人口置き換え水準）の2.08よりかなり低水準になっています。ひとつの家庭で2人以上子どもが生まれないと、現在の日本の人口を維持できなくなります。

こうした状態が長く続いた結果、高齢化が進み、高齢者の数が子どもの数を上回る「少子・高齢化社会」を迎えています。

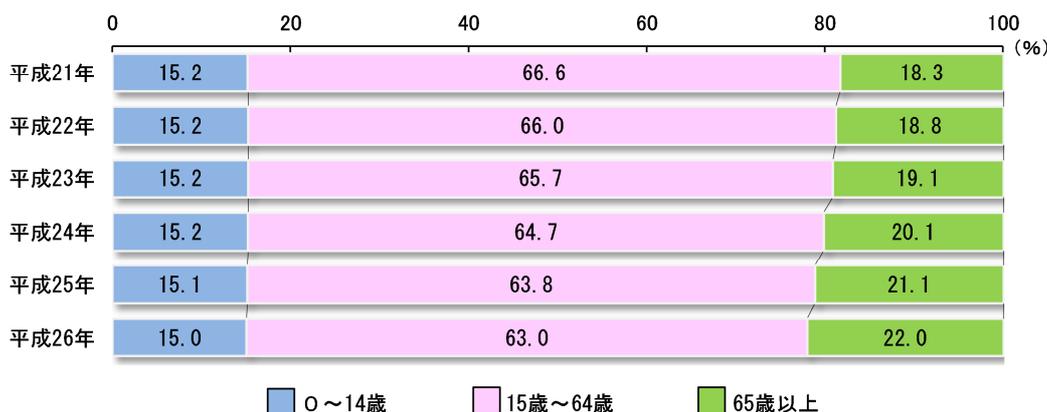
### ◆茨木市の出生率の推移

～人口を維持するためには、まだまだ低い出生率～



## ◆年齢3区分別人口の推移

～人口に占める高齢者の割合が子どもの割合をどんどん超えていく～



### Q なぜ、少子化が進むのですか？

**A** 少子化には、親となる世代の人口が減ったことや、その世代の子どもの生み方の変化が大きく関係していると言われています。

少子化が起きた原因は、男女とも初めて結婚する年齢が遅くなる「晩婚化」、それに伴って、特に20歳代から30歳代を中心に一度も結婚していない人が増える「未婚化」が進んでいることがあります。また、晩婚化が進むことにより、生涯結婚しないで独身で過ごす「非婚化」も増えていると言われています。

さらに、夫婦が生み育てる子どもの数も減っており、一人っ子や子どもを持たない家庭が増える傾向にあります。

これらのさまざまな原因が重なり、茨木市でも少子化が進んでいるのです。

### Q なぜ、晩婚化や未婚化などが進むのですか？

**A** 晩婚化・未婚化の進行や夫婦が生み育てる子どもの数が減る背景には、女性の職場進出が進む一方で、子育てと仕事を両立できる社会環境が十分整っていないことのほか、子育てに対して心理的・肉体的な負担や教育費などの経済的な負担を抱く人が多く存在していることが挙げられます。

また、「ある程度の年齢になったら結婚する」といった結婚を人生の選択肢のひとつとしてとらえたり、「自分自身の生活を自由に楽しみたい」といった理由で必ずしも子どもを必要としない考え方が広がってきていることも背景にあると言われています。さらに、最近では、10歳代から20歳代の若い世代を中心に、若年失業者やフリーター・ニートが増え、社会的な自立を困難にさせ、経済的な不安を大きくしていることも、結婚や子どもを生み育てることに影響を与える一因となっていると考えられています。

## ◆少子化は、さまざまな要因が重なって進行する…

### ●晩婚化の進行

- 親との同居
- 結婚に対する意識の変化
- 経済的に不安定な若者の増加など

### ●未婚化の進行

- 結婚観・価値観の変化
- 独身生活の気楽さなど

### ●夫婦の出生力の低下

- 育児や教育にかかるコストへの負担増
- 子育てと仕事の両立の困難さ
- 男性の育児への不参加・非協力
- 核家族化による育児不安
- 近所づきあいの希薄化による育児の孤立化など



# 少子化がもたらす問題は？

さまざまな要因が重なり合って進行する少子化。  
それでは、少子化によって私たちの社会にもたらされる問題点を考えてみましょう。

## 子どもの健全な発達へのさまたげにつながる

皆さんにはきょうだいは何人いますか。

子どもがいる家庭の数が減ることは、きょうだいのいる家庭が減り、また隣近所で一緒に遊べる子どもも減るなど、きょうだい、友だちどうしの間関係の中で、子どもが健全に育っていくために必要な他者とのコミュニケーションが不足し、発達のさまたげになることが心配されます。

## 地域社会の活力が低下する

少子化が進むことで、人口が減少する地域が増え、過疎化が進む恐れがあります。若者は減り、高齢者ばかりの地域になると、伝統的なお祭りや行事などの開催が維持できなくなったり、防犯や防災活動、保健・福祉などの地域住民が助け合い活動も十分行えなくなるなど、地域社会の活力が低下する可能性があります。

## 経済的な活力が低下する

日本全体でみると、少子化と高齢化が進むことで、労働力人口が減少することも予想されています。労働力人口が減少すると、経済成長率も低下する恐れがあり、また人口減少により、食料や医療、住宅などの需要が減り、家計に占める貯蓄率が低下するなど、経済的な面でも活力の低下が懸念されます。

## 働く世代の社会保障費の負担が増える

年金や医療保険などの社会保障給付費は、主に働いている世代の保険料（年金や医療などの保険給付の財源）と国民の税金による負担でまかなわれています。少子化が進めば、労働者が少なくなり、年金や医療の給付を必要としている人々を一人でたくさん支えなければならなくなります。少子化は、働く世代の負担をますます増大させることにもなってくるのです。

# 茨木市の中学生・高校生の結婚や出産に関する意識は？

茨木市では、平成25年12月に市立中学校、府立高等学校、そして支援学校高等部にそれぞれ通学する2年生の生徒の皆さんを対象に結婚や子育てなどに関するアンケートを実施しました。

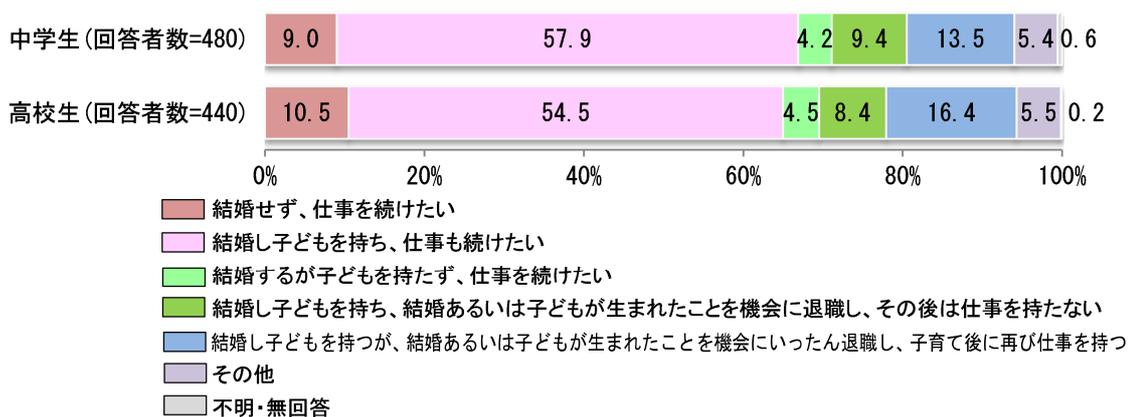
ここでは、アンケートの中から、少子化に係る調査結果の一部を紹介します。

## Q みんなは、将来についてどう考えているのかな？

**A** 中学生・高校生が考える理想のライフコースについてたずねました。中学生・高校生とも、「結婚し子どもを持ち、仕事も続けたい」が最も高くなっています（中学生57.9%、高校生54.5%）。これに次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは子どもが生まれたことを機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が中学生13.5%、高校生16.4%となっています。

### ◆理想のライフコース

～中学生・高校生とも、子育てなどの家庭生活と仕事の両立を理想としている人が過半数～



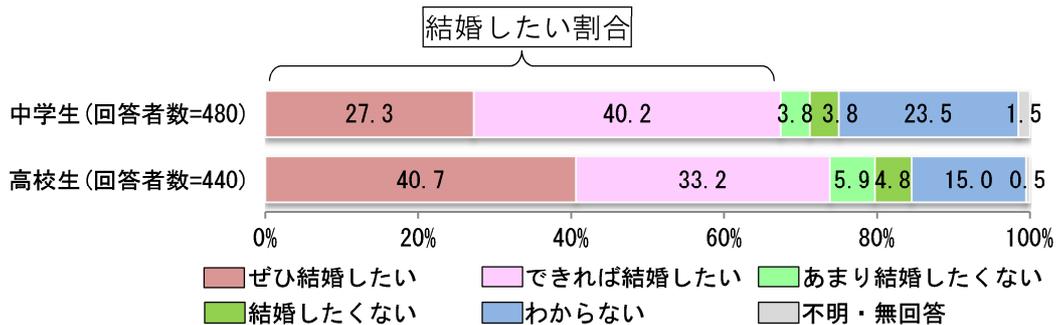
男女で区別することなく、子育てや仕事を共同で行うことで、家庭生活と仕事を両立し、バランスのとれた生活を送ることができる自立した社会人になることが大切だよ。

## Q みんなは、将来結婚したいと思っているの？

**A** それでは、中学生・高校生の結婚意識はどうなっているのでしょうか。「ぜひ結婚したい」と考えている割合は、中学生が27.3%、高校生が40.7%で、「できれば結婚したい」を合計すると半数以上は結婚したいと思っています。

### ◆結婚したい割合

～中学生・高校生とも結婚したいと回答した人が過半数～

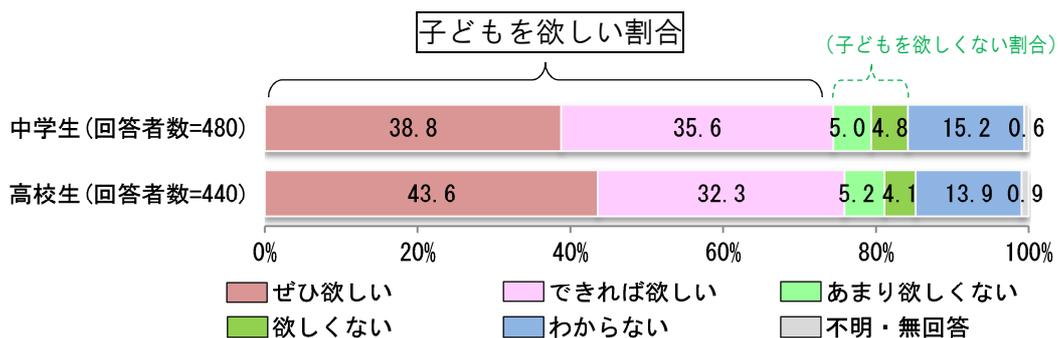


## Q みんなは、将来子どもをほしいと思っているの？

**A** 中学生、高校生ともに「ぜひ欲しい」が最も高く、それぞれ38.8%、43.6%となっています。「できれば欲しい」を合計すると、子どもが欲しい割合は中学生が74.4%、高校生が75.9%にのぼり、欲しくない割合を大きく上回っています。

### ◆子どもをほしいと思う割合

～中学生・高校生とも子どもをほしいと回答した人が7割～



子どもを育てることは、みなさんの次代をつないでいくために重要なことなんだ。そのためは、結婚することの意味や重要性について理解を深めることが大切だよ。

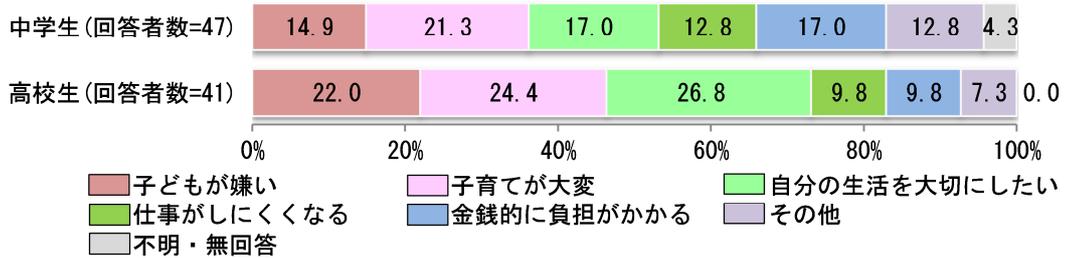


## Q 将来子どもをほしくない理由は何だろう？

**A** 中学生・高校生とも10%程度の人が子どもを欲しくないと回答しています。欲しい割合に比べると少なくなっていますが、欲しくないと回答した人の理由をみると、中学生は「子育てが大変」(21.3%)、高校生は「自分の生活を大切にしたい」(26.8%) がそれぞれ最も多くなっています。

### ◆子どもをほしくない理由

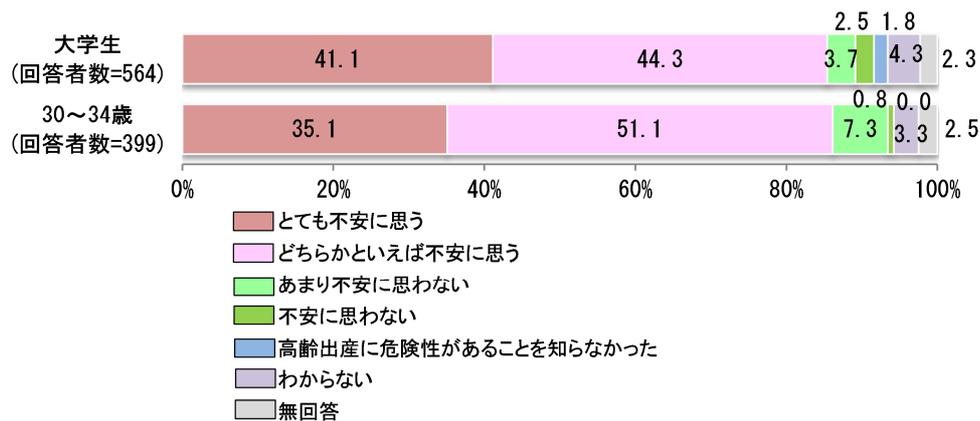
～中学生は子育ての大変さを感じ、高校生は自由を大切にしたいと思っている～



### 豆知識 高齢出産が赤ちゃんに与える影響

女性の妊娠しやすさ(妊孕性)は、年齢とともに低下していきます。また、出産が高齢になるほど、生まれた赤ちゃんに先天的な異常をもたらす確率が高くなったり、流産や妊娠高血圧症候群など母体に影響を及ぼす危険性が高まると言われています。

茨木市が大学生と30歳代前半の人を対象に行った調査では、8割を超える人が高齢出産に不安を抱いています。未婚化・晩婚化が進んでいると言われる現在、妊娠・出産に関する正しい知識を身につけて、自分らしいライフプランについて考えることが大切です。



(茨木市次代の親の意識と支援施策の研究に関する調査(平成26年度))



妊娠のしやすさを低下させる主な原因は、卵子の質の低下だよ。年齢が高くなるとともに卵子の質が低下し、流産する頻度も多くなるおそれがあるんだ。

## 豆知識 若年出産のリスク

「若年出産」とは、19歳以下で子どもを出産することをいいます。  
世間では、高齢出産のリスクについていわれることが多いですが、若くて出産しても大変な面があります。

### 若年で出産すると…

- ◆体力が有り余っているため、子どもの世話や相手をするのも比較的楽
- ◆自分の親もまだ若く、育児の協力や知恵も得やすい
- ◆育児がひと段落するのが早いので、働いたり趣味などに取り組める機会が多い
- ◆同年代の子どもの親よりも若い など

### 一方でこんな場合も…

- ◆未婚のままで出産することが多い
- ◆経済的に不安定
- ◆身体的にもまだ未成熟なため、ホルモンバランスが整っておらず、母体としての発育が不十分な場合が多いため、早産、胎児の子宮内発育遅延などが多い
- ◆35歳以上の高齢出産と同じくらい周産期の死亡率が高い
- ◆望まない妊娠であることが多く、妊婦健康診査を受けない、母親教室などに参加しないなど、妊娠・出産に関する知識が不足し、妊娠中の健康管理ができない
- ◆突然の妊娠や子育てのため、学業や夢を途中で断念することが多い
- ◆同世代に出産経験者が少ないため、相談相手が少ない
- ◆孤立してしまうことでうつになり、育児放棄してしまう など

## 気軽に相談してください

### にんしんSOS

大阪府の思いがけない妊娠等の相談窓口です。

電話での相談 ☎0725-51-7778

(月～金 午前10時～午後4時 祝日は除く)

メールでの相談も可能です。(http://www.ninshinsos.com/index.html)

### 妊娠・子育て・出産電話相談

一般社団法人 大阪府助産師会

電話での相談(24時間) ☎06-6775-8894

思春期 e-mail 相談 http://www.josansi.org/

### 保健相談(電話・面接)

妊娠・出産に関する相談

保健師による身体計測や育児等に関する相談

こども健康センター ☎072-621-5901

(月～金 午前8時45分～午後5時15分 祝日は除く)

茨木市の次代を担う皆さんが本市で安心して暮らすことができるよう、市では次のような取組を進めています。

## 妊娠・ 出産期

### ■安心して妊娠・出産できるように

- ①子どもを生み育てるための意識啓発
- ②妊産婦の健康保持・増進



- ♥結婚や出産、子育てを歓迎し応援します。
- ♥妊産婦の心身の健康を保ち、安心して妊娠、出産できる環境をつくります。

## 就学前期

### ■のびのびと子どもが育ち、安心して子育てできるように

- ①子どもの健康保持・増進
- ②就学前教育・保育の充実
- ③子育て支援サービスの充実
- ④地域ぐるみの子育て支援
- ⑤安心して外出できる環境整備

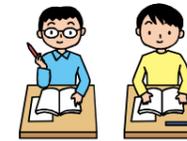


- ♥子どもの健康保持・増進や健康に関する相談・情報提供を充実します。
- ♥幼稚園や保育所などでは、社会性や自主性を培い、教育・保育の一体的提供を行います。
- ♥子育て家庭を地域ぐるみで支え合い・助け合う体制を推進します。

## 小・中学校期

### ■「生きる力」と豊かな感性が育まれるように

- ①特色ある学校教育の充実
- ②学校・地域・家庭の連携
- ③安全で安心な居場所づくり
- ④子どもの視点を取り入れた社会づくり



- ♥児童・生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばし、「生きる力」を育む教育を推進します。
- ♥様々な体験や交流活動を推進し、子どもの生きる力を育む環境づくりを推進します。
- ♥子どもたちにとって安全・安心な居場所をつくり、地域社会の中で、心豊かで健やかに育つ環境をつくります。

## 青年期

### ■心豊かな次代の親が育つように

- ①若者の自立支援
- ②青少年の健全育成
- ③体験活動の充実



- ♥ひきこもり・ニート・不登校や様々な課題を抱える若者が、就労・就学等の社会参加ができるよう、支援を行います。
- ♥次代を担う青少年が社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加するための環境をつくります。
- ♥地域にある様々な資源を生かしたボランティア活動や体験活動、交流活動を充実します。

### ■仕事と生活の調和がとれるように (ワーク・ライフ・バランスの実現)

- ①意識啓発
- ②職場環境の改善に向けた支援

- ♥育児休業などの各種法制度や子育てしやすい就業形態の導入など、企業に対し、従業員の子育て支援への理解や協力を求める啓発を推進します。
- ♥子育ては親として男女関係なく共同で担うものという意識を啓発します。

### ■社会的支援が必要な子ども・家庭が安心できるように

- ①ひとり親家庭支援
- ②障害のある子どもを養育する家庭への支援
- ③児童虐待防止
- ④外国人など配慮が必要な家庭への支援
- ⑤子どもの貧困対策

- ♥ひとり親家庭の日常生活での自立を支え、生活の安定を図る支援を推進します。
- ♥障害のある子ども一人ひとりの障害の状況等に応じた切な療育及び教育・保育並びに福祉サービスの提供を図ります。
- ♥地域における虐待防止のための支援体制の強化を図ります。
- ♥外国人を理解する啓発・教育に取り組みます。
- ♥貧困家庭に対する自立生活のための支援などに取り組みます。



中学生・高校生のあなたに知ってほしいこと

平成27年（2015年）3月

発行 茨木市 こども育成部 こども政策課  
〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号  
電話 072-622-8121(代)  
URL <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/>